

終章 【大谷大学短期大学部】

本学は序章にも記したとおり、建学の理念を同じくする大谷大学の歴史を踏まえるなら、1665年、東本願寺の教育機関として設立された「学寮」にその源を見出すことができる。大谷大学短期大学部として開設した1950年からかぞえると、六十有余年の歴史を経てきている本学の現状及び点検・評価は、各章に既述したとおりである。ここでは、以下3点の内容を記して、終章としたい。

1、本学における理念・目的、教育目標の達成状況

第1章及び第4章で記したとおり、本学は建学の理念を仏教、特に浄土真宗に据え、そのもとに短期大学部及び各学科の教育目標を定めている。その達成状況は、概して言えば、理念、教育目標のもとに教育内容、方法を体系的に関連づけた体制を構築し、両学科とも学生に対するきめ細かい教育、指導を実施しつつ日々工夫を重ねており、学生自身の学習成果の把握という点で課題は残るものの、本学の現状は理念・目的、教育目標の達成度において決して低くはないと判断している。2012年度の卒業生アンケート及び2013年度の在学生満足度アンケート結果における卒業生、学生の満足度の高さが、このことを示唆しているということもできよう（資料終-1『大谷大学卒業生アンケート調査結果報告書』pp.21-24、資料終-2『大谷大学・大谷大学短期大学部在学生満足度アンケート調査結果報告書（一部抜粋）』（2013年度実施）pp.34-36）。

ただし、理念・目的、教育目標の達成は不断に努力していくべき質の事柄であり、どこかで終わるというものではない。更に高い水準において本学の理念が達成できるように取り組んでいく。

2、優先的に取り組むべき課題

今回の認証評価における取組を通して、改めて見出された課題は少なくないが、特に仏教科の定員未充足については、優先的に取り組むべき重大な課題であると認識している。仏教科の定員未充足については、入学センターと当該学科所属の教員を中心に可能なかぎりの対応策とその実施を継続的に試みてきているが、定員充足にいままで至っていない。また本学の根幹にかかわる問題であることから、大学総合企画委員会において検討し、2014年10月の同委員会の答申を受けて、学長会が改善方策を検討しているところである。

3、今後の展望

本学は、大谷大学とともに2011年に「グランドデザイン」を宣言した。これは2012年度から2021年度の10年間を対象としたものであるが、その策定から既に3年以上の月日が経過している。本学は、この「グランドデザイン」についても点検・評価の一環として、改善すべき内容については、より実のあるものとするためにその一部を改訂している。

本学の今後の展望については、この「グランドデザイン」のもと、時代の激しい潮流の変化や社会のニーズに応じつつ、本学の一貫して掲げ続けてきた理念・目的の達成のため、教職員が協働して本学の責任を果たしていく以外にないと考える。

本学の運営の面では、運営に関する重要事項を審議・決定する学長会と、運営の責任組織である大学運営会議を設置した。この体制での大学運営は現在その緒に就いたばかりである。また教育研究に関わる全ての組織が自らの責任で点検・評価を行い、その結果を改

終章
【大谷大学短期大学部】

善へとフィードバックしていく体制（内部質保証の手続き）もまた構築した所であり、本学におけるこのような体制の整備がどのような結果をもたらしているかについては、まだそれを明確に判断する時に至っていない。

しかし本学のこれらの新しい取組は、今後の展望を考えるうえで重要な意味をもっている。自らの責任をもって、理念・目的の達成という点においても本学の運営における改善という点においても不断に検証しつつ、検証の結果を改善に向けてフィードバックしていく実のある体制の充実をはかることが本学のこれまでの大きな遺産を受け継ぎ、未来の本学のあり方を切り開く不可欠な契機であることを明記して、本報告書の結びとしたい。

根拠資料

資料終-1 『大谷大学卒業生アンケート調査結果報告書』（既出（4(4)-7））

資料終-2 『大谷大学・大谷大学短期大学部在学生満足度アンケート調査結果報告書
（一部抜粋）』（2013年度実施）（既出（4(4)-9））